

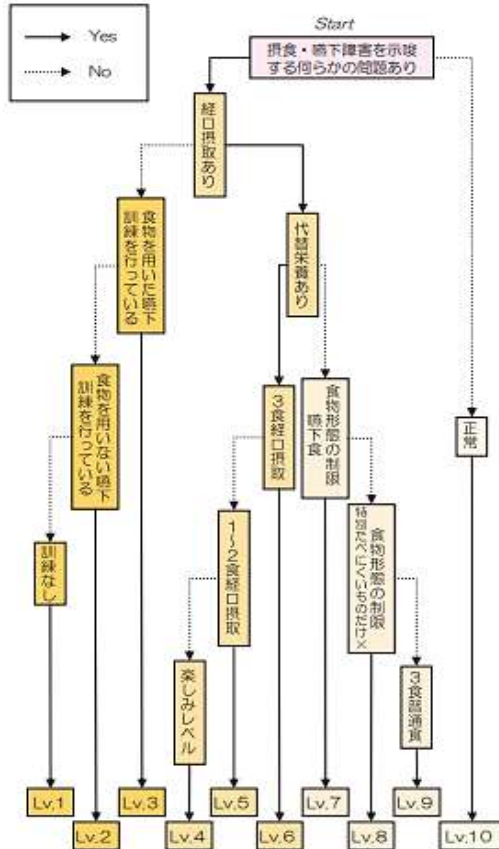
摂食・嚥下障害患者における 摂食状況のレベル

摂食・嚥下障害患者さんがどのくらい食べられているかを評価する簡便な基準を作成いたしました。信頼性と妥当性の検証もしてあります。この評価基準は「している」をそのまま評価します。嚥下造影や内視鏡検査が行えない施設や在宅でも使用可能です。

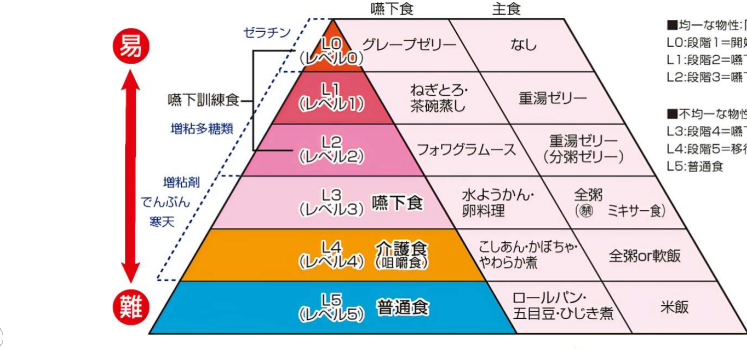
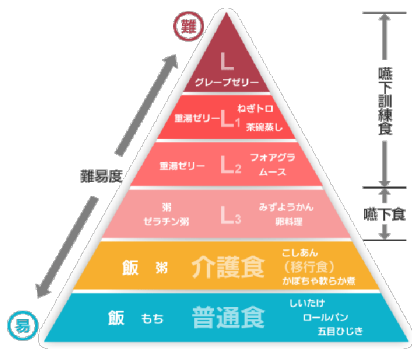
* 摂食・嚥下障害を示唆する何らかの問題あり	経口摂取なし	Lv.1 嚥下訓練 [*] を行っていない
		Lv.2 食物を用いない嚥下訓練を行っている
		Lv.3 ごく少量の食物を用いた嚥下訓練を行っている
経口摂取と代替栄養	Lv.4	1食分未満の嚥下食を経口摂取しているが [*] 、代替栄養が主体 (楽しみレベル)
	Lv.5	1-2食の嚥下食を経口摂取しているが、代替栄養が主体
	Lv.6	3食の嚥下食経口摂取が主体で、不足分の代替栄養を行っている
経口摂取のみ	Lv.7	3食の嚥下食を経口摂取している、代替栄養は行っていない
	Lv.8	特別食べにくいものを除いて、3食経口摂取している
	Lv.9	食物の制限はなく、3食を経口摂取している
	Lv.10	摂食・嚥下障害に関する問題なし (正常)

* 摂食・嚥下障害を示唆する何らかの問題：覚醒不良、口からのこぼれ、口腔内残留、咽頭残存感、ムセなど
 嚥下訓練：専門家、またはよく指導された介護者、本人が嚥下機能を改善させるために行う訓練
 嚥下食：ゼラチン寄せ、ミキサー食など、食塊形成しやすく嚥下しやすいように調整した食品
 代替栄養：経管栄養、点滴など非経口の栄養法
 特別食べにくいもの：パサつくもの、堅いもの、水など

摂食・嚥下障害患者における 摂食状況のレベル評価フローチャート

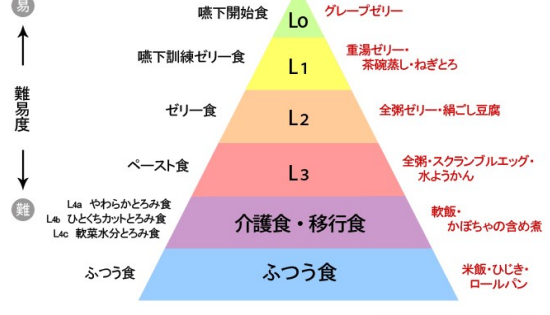


藤島一雄、大野文子、他「摂食・嚥下状況のレベル評価」(摂食・嚥下機能障害の診断) 9(4)頁41-52(4) 2006
 Kuribayashi K, Ohno T, Fujimoto A, Higo K, Morita T. Reliability and Validity of a Tool to Measure the Severity of Dysphagia - The Food Intake (FOI) Scale. Journal of Diet and Exercise Measurement 11(4) 401-406 2014



■均一な物性：「嚥下訓練食」
 L0:段階1=開始食
 L1:段階2=嚥下食I
 L2:段階3=嚥下食II

■不均一な物性
 L3:段階4=嚥下食III(嚥下食)
 L4:段階5=移行食(介護食)
 L5:普通食



(※広島県障害福祉会提案の名称 参照)

学会分類2021 (食事)	嚥下食 ピラミッド	特別用途食品 許可基準区分	UDF	
●均質で、付着性・凝集性・かたさに配慮したゼリー ●離水が少なく、スライス状にすくうことが可能なもの	0j	L0	許可基準 I	—
●均質で、付着性・凝集性・かたさ、離水に配慮したゼリー・プリン・ムース状のもの	0t	L3の一部 (とろみ水)	—	—
●ピューレ・ペースト・ミキサー食など、均質でなめらかで、べたつかず、まとまりやすいもの 2-1:均質でなめらか 2-2:不均質なものを含む	2-1	L1・L2	許可基準 II	かまなくてもよい (ゼリー状)
●ピューレ・ペースト・ミキサー食など、均質でなめらかで、べたつかず、まとまりやすいもの 2-1:均質でなめらか 2-2:不均質なものを含む	2-2	L3	許可基準 III	かまなくてもよい
●形はあるが、押しつぶしが容易、食塊形成や移送が容易、咽頭でばらけず嚥下しやすいように配慮されたもの ●多量の離水がない	3	L4	—	舌でつぶせる
●かたさ・ばらけやすさ・貼りつきやすさなどのないもの ●箸やスプーンで切れるやわらかさ	4	—	—	舌でつぶせる および 歯きでつぶせる および 容易にかめるの一部

コード [I-8項]	名称	形態	目的・特色	主食の例	必要な咀嚼能力 [I-10項]	他の分類との対応 [I-7項]
0	j 嚥下訓練食品 0j	均質で、付着性・凝集性・かたさに配慮したゼリー 離水が少なく、スライス状にすくうことが可能なもの	重度の症例に対する評価・訓練用 少量をすくってそのまま丸呑み可能 残留した場合にも吸引が容易 たんばく負含有量が少ない		(若干の送り込み能力)	嚥下食ピラミッド L0 えん下困難者用食品許可基準 I
	t 嚥下訓練食品 0t	均質で、付着性・凝集性・かたさに配慮したとろみ水 (原則的には、中間のとろみがあるいは濃いとろみがかが通している)	重度の症例に対する評価・訓練用 少量ずつ飲むことを想定 ゼリー丸のみで誤嚥したりゼリーが口中で溶けてしまう場合 たんばく負含有量が少ない		(若干の送り込み能力)	嚥下食ピラミッド L3の一部 (とろみ水)
1	j 嚥下調整食 1j	均質で、付着性・凝集性・かたさ、離水に配慮したゼリー・プリン・ムース状のもの	口腔外に既に適切な食塊状となっている (少量をすくってそのまま丸呑み可能) 送り込む際に多少意識して口蓋に舌を押しつける必要がある 0jに比し表面のざらつきあり	おもゆゼリー、ミキサー粥のゼリーなど	(若干の食塊保持と送り込み能力)	嚥下食ピラミッド L1・L2 えん下困難者用食品許可基準 II UDF 区分 かまなくてもよい (ゼリー状) *UDF:ユニバーサルデザインフード
	2-1 嚥下調整食 2-1	ピューレ・ペースト・ミキサー食など、均質でなめらかで、べたつかず、まとまりやすいもの スプーンですくって食べることが可能なもの	口腔内の簡単な操作で食塊状となるもの	粒がなく、付着性の低いペースト状のおもゆや粥	(下顎と舌の運動による食塊形成能力および食塊保持能力)	嚥下食ピラミッド L3 えん下困難者用食品許可基準 III UDF 区分 かまなくてもよい
2	2-2 嚥下調整食 2-2	ピューレ・ペースト・ミキサー食などで、べたつかず、まとまりやすいものでも不均質なものを含む スプーンですくって食べることが可能なもの	(咽頭では残留、誤嚥をしにくいように配慮したもの)	やや不均質 (粒がある)でもやわらかく、離水もなく付着性も低い粥類	(下顎と舌の運動による食塊形成能力および食塊保持能力)	嚥下食ピラミッド L3 えん下困難者用食品許可基準 III UDF 区分 かまなくてもよい
3	嚥下調整食 3	形はあるが、押しつぶしが容易、食塊形成や移送が容易、咽頭でばらけず嚥下しやすいように配慮されたもの 多量の離水がない	舌と口蓋間で押しつぶしが可能なもの。 押しつぶしや送り込みの口腔操作を要し (あるいはそれらの機能を要し)、かつ誤嚥のリスク軽減に配慮がなされているもの	離水に配慮した粥 など	舌と口蓋間の押しつぶし能力以上	嚥下食ピラミッド L4 UDF 区分 舌でつぶせる
4	嚥下調整食 4	かたさ・ばらけやすさ・貼りつきやすさなどのないもの 箸やスプーンで切れるやわらかさ	誤嚥と窒息のリスクを配慮して素材と調理方法を選んだもの 歯がなくても対応可能だが、上下の歯槽間で押しつぶすあるいはすりつぶすことが必要で舌と口蓋間で押しつぶすことは困難	軟飯・全粥 など	上下の歯槽間の押しつぶし能力以上	嚥下食ピラミッド L4 UDF 区分 舌でつぶせる および UDF 区分 歯きでつぶせる および UDF 区分 容易にかめるの一部

区分	 容易にかめる	 歯くさでつぶせる	 舌でつぶせる	 かまなくてよい	
かむ力の目安	かたいものや大きいものはやや食べづらい	かたいものや大きいものは食べづらい	細かくてやわらかければ食べられる	固形物は小さくても食べづらい	
飲み込む力の目安	普通に飲み込める	ものによっては飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらい	
かたさの目安	ごはん	ごはん~やわらかごはん	やわらかごはん~全がゆ	全がゆ	ペーストがゆ
	さかな	焼き魚	煮魚	魚のほくし煮(とろみあんかけ)	白身魚のうらごし
	たまご	厚焼き卵	だし巻き卵	スクランブルエッグ	やわらかい茶わん蒸し(具なし)
※食品のメニュー例で商品名ではありません。	調理例(ごはん)				
物性規格	かたさ上層値 N/m ²	5x10 ⁵	5x10 ⁴	ゾル: 1x10 ⁴ ゲル: 2x10 ⁴	ゾル: 3x10 ³ ゲル: 5x10 ³
	粘度下層値 mPa·s			ゾル: 1500	ゾル: 1500

※「ゾル」とは、液体、もしくは固形物が液体中に分離しており、流動性を有する状態をいう。「ゲル」とは、ゾルが流動性を失いゼリー状に固まった状態をいう。

	段階 1 薄いとろみ	段階 2 中間のとろみ	段階 3 濃いとろみ
英語表記	Mildly thick	Moderately thick	Extremely thick
性状の説明 (飲んだとき)	<ul style="list-style-type: none"> ●「drink」という表現が適切なとろみの程度 ●口に入れると口腔内に広がる液体の種類・味や温度によっては、とろみが付いていることがあまり気にならない場合もある ●飲み込む際に大きな力を要しない ●ストローで容易に吸うことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●明らかにとろみがあることを感じ、かつ「drink」という表現が適切なとろみの程度 ●口腔内での動態はゆっくりですぐには広がらない ●舌の上でまとめやすい ●ストローで吸うのは抵抗がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●明らかにとろみが付いていて、まとまりがよい ●送り込むのに力が必要 ●スプーンで「eat」という表現が適切なとろみの程度 ●ストローで吸うことは困難
性状の説明 (見たとき)	<ul style="list-style-type: none"> ●スプーンを傾けるとすつと流れ落ちる ●フォークの歯の間から素早く流れ落ちる ●カップを傾け、流れ出た後には、うっすらと跡が残る程度の付着 	<ul style="list-style-type: none"> ●スプーンを傾けるととろとろと流れる ●フォークの歯の間からゆっくりと流れ落ちる ●カップを傾け、流れ出た後には、全体にコーティングしたように付着 	<ul style="list-style-type: none"> ●スプーンを傾けても、形状がある程度保たれ、流れにくい ●フォークの歯の間から流れ出ない ●カップを傾けても流れ出ない(ゆっくりと塊となって落ちる)
粘度 (mPa·s)	50—150	150—300	300—500
LST 値 (mm)	36—43	32—36	30—32
シリンジ法による残留量 (ml)	2.2—7.0	7.0—9.5	9.5—10.0